

近畿大学奈良キャンパスに出現したニホンザル

藤井 太基・澤畠拓夫

近畿大学農学研究科環境管理学専攻

The first record of the Japanese monkey, *Macaca fuscata*, in the Nara Campus of Kinki University

Taiki FUJII, Takuo SAWAHATA

*Program in Environmental Management, Graduate School of Agriculture, Kinki University,
Nakamachi, Nara, 631-8505, Japan*

Synopsis

In 25th April 2015, two individuals of the Japanese Monkey, *Macaca fuscata*, were found in the Nara Campus of Kinki University located in the western edge area of the Nara Basin. This is the first record of the monkey there. This finding intimates that the movement of the monkey around there has been changed recently. More attention should be paid to predict their future movement.

Key words: *Macaca fuscata*, Nara Basin, Yata-kyuryo hill.

ニホンザル *Macaca fuscata* は、サル目オナガザル科に属する日本固有種である¹⁾。本州、四国、九州、屋久島などに分布し、屋久島のものは本土のホンダザル *M.f.fuscata* と別亜種ヤクシマザル *M.f.yakui* とされる^{1,2)}。常緑広葉樹林と落葉広葉樹林の混合林帯に生息し、数頭のオスの成体、メスの成体とその子どもからなる十数頭から百数十頭までの群れで生活する^{1,2)}。群れを離れて 1 頭でくらすオスは、一人ザルや離れザルと呼ばれる。昼行性で樹上と地上で様々な植物に加え、昆虫やサワガニなどの動物質も採食する雑食性であ

るが量的に植物が多い^{1,2)}。また、農作物を食害することもあり猿害とも呼ばれる^{1,2)}。

奈良県では、以前からニホンザルの生息は主に南部の山地や東部に位置する春日山などに生息していたが³⁾、近年は奈良盆地内の農業集落においても記録が増加している。しかし、奈良盆地内で記録されている個体は離れザルのみであり、群れは目撃されていない⁴⁾。

近畿大学奈良キャンパスは奈良市郊外の矢田丘陵(Fig. 1)にあり、これまで無人センサーカメラなどを用いた生物調査が行われてきたが、ニホンザルは記録されていない

ことから、これまで当地においてニホンザルは生息していないとされてきた。しかし 2015 年 4 月 25 日、本キャンパス敷地内でニホンザル 2 頭が目撃された(Fig. 2)。その後、ニホンザルの姿がほとんど確認されていないこと、今回目撃したニホンザルが 2 頭で行動し、群れで行動していないことから、離れザルである可能性が高い。

矢田丘陵では 2012 年度に近畿大学奈良キャンパス周辺で記録がされているが、2013 年度には郡山市矢田町のみの記録にとどまっている⁴⁾。2012 年度は生駒山系から矢田丘陵まで連なった地域で確認されていることから、この年に近畿大学奈良キャンパス周辺に移動してきたと考えられる(Fig. 3)。

今回確認されたニホンザルは人間が近距離にいるにも関わらず逃避行動に移らなかったことから、人間に対する警戒心が強くないと考えられる。このような人間を恐れない個体が増加することは、近年猿害の多発している地域で猿害が深刻化する一因となっている⁵⁾。

これまで矢田丘陵でのニホンザルの群れを目撃例がないことから、矢田丘陵は現実的なニホンザルの分布域となっていないと



Fig.1. Yata-kyuryo hill and neighboring cities, towns, and villages



Fig.2. Japanese monkey, *Macaca fuscata* found in Kinki University

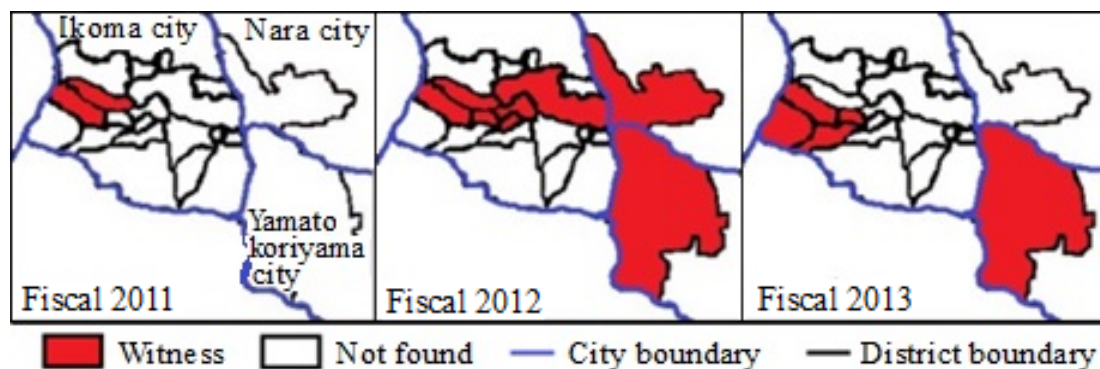


Fig.3. Local change of the Japanese monkey witness information in the fiscal 2011~2013 year⁴⁾

考えられるが、今回のような離れザルが出現を繰り返すことにより、矢田丘陵まで分布を拡大させる可能性があり、今後の動向に注視していく必要がある。

引用文献

- 1) 阿部 永 (1994) ニホンザル. 日本の哺乳類. pp. 72-73.東海大学出版会, 東京.
- 2) 小宮輝之 (2006) ニホンザル. 日本の哺乳類. pp.128-129.株式会社学習研究社, 東京.
- 3) 鳥居春己 (2013) 世界遺産春日山原始林・照葉樹林とシカをめぐる生態と文化-. 87pp.ナカニシヤ出版, 京都.
- 4) 奈良県 (2009-2014)有害鳥獣アンケート調査. 奈良県ホームページ :
<http://www.pref.nara.jp/24353.htm>
- 5) 見ているだけで進むサルの餌付け.奈良県ホームページ :
<http://www.pref.nara.jp/10701.htm>